

## 研究会大会報告

## 令和5年度秋の研究会大会報告

## Report on the CSAJ Study Groups Meeting 2023

令和5年度秋の研究会大会実行委員会  
Executive Committee of the CSAJ Study Groups Fall Meeting 2023

令和5年度秋の研究会大会を、2023年10月28日、29日の両日、オンラインで開催しました。例年より早い時期での開催でしたが(秋の大会史上初めての10月開催)、参加研究会は昨年と同様の9研究会、参加登録者数は104名と例年通りの規模で実施しました。

大会では、恒例となった合同研究発表会が両日開催され、計19件の発表が行われました。発表内容については、発表論文アブストラクト(色彩学第2巻第4号に掲載)をご参照ください。このほか、28日には、2023年5月に新設された美的感性研究会の発足までの道のりを、初代主査の川澄未来子氏にお話いただきました。その後、持続可能な未来ワーキンググループ第2回懇親会、オンライン交流会が行われました。29日には、招待講演として、東京農工大学の北直樹氏に、「配色デザインの新展望：CG分野と生成系AIの交錯から見える未来」と題して、ご講演いただきました。この場をお借りして、参加いただきました会員の皆様、大会運営にご尽力いただきました実行委員、事務局の皆様、に厚くお礼申し上げます。

(酒井英樹・令和5年度研究会大会実行委員会)

## 招待講演

今年度は、コンピュータグラフィックス(CG)分野で研究活動をされている東京農工大学の北直樹先生に、昨今話題となっている画像生成系AIと色をテーマにお話いただいた。講演では、まず、CG分野における配色デザイン研究の歴史として、色彩調和理論に基づく画像の配色最適化から、最新の画像生成AIによる配色デザイン支援の試みまでを紹介いただいた。その後、北先生が研究されている、カラープロンプトによる生成画像の配色制御の試み、さらに、色を想起させる情景描写を対話型AIに生成させて、そのテキストを画像生成AIに入力することで、ユーザの情景描写能力に依存せずに高品質な画像生成を達成させる試みについて、紹介いただいた。

(酒井英樹)

## 優秀発表奨励賞

優秀発表奨励賞は、8研究会合同研究発表会において、色彩学研究の発展に大きく寄与する研究かつ優れた発表を行った若手研究者を表彰するものである。本大会では、9名の委員で構成される審査委員会において、対象発表を厳正に審査した。その結果、受賞者は発表題目「サブ画素構造が知覚的解像度に与える影響の実験的検討」を発表した千葉大学工学部の明田川航世氏に決定した。受賞発表は、研究内容と発表内容ともに優れており、今後の発展が期待されるものであった。研究会大会のクロージングセッションにおいて優秀発表奨励賞受賞式を行った。受賞者の発表と表彰状の読み上げを行い、その後受賞者に受賞コメントを頂いた。表彰状は、後日郵送にて受賞者に贈られた。

今回は、審査対象発表の数が少なかった点が残念であった。研究発表の客観的な評価を得られる良い機会だと考えられるので、学生や若手研究者のみなさまには、ぜひ今後の研究会で奮ってエントリーしていただきたい。

最後に、ご多忙のところ審査にご協力いただいた審査委員のみなさまに深く感謝申し上げます。

(溝上陽子・優秀発表奨励賞審査委員長)

## 令和5年度研究会大会実行委員会

酒井英樹(実行委員長, カラーデザイン)  
昆野照美(色彩教材)  
鈴木卓治(画像色彩)  
西省吾(測色)  
萩原京子(環境色彩)  
堀内隆彦(視覚情報基礎)  
溝上陽子(色覚)  
宮崎純子(パーソナルカラー)  
森友令子(美的感性)  
羽成隆司(学会理事)  
田中緑(論文編集委員会)  
八木橋生輔(学会事務局)